2014・2015年度教研テーマ
共に祈り 共に生きよう

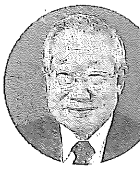
キリスト教学校教育 3

http://www.k-doumei.or.jp/　E-mail info@k-doumei.or.jp

キリスト教学校教育同盟
〒160－0004
東京都新宿区四谷1－21
桜美林学園気付5F
電話 03（5341）4190
FAX 03（5341）4191
理事長 佐藤東洋士
編集人 田村 浩一
頒価200円（加盟法人の購読料は会費に含まれています）
（毎月1回15日発行）

教育同盟に期待すること

神山繁實



沖縄におけるキリスト教大学は、沖縄キリスト教学院（以下、「本学院」と略記）のみである。沖縄に高等教育機関が設置されたのは戦後のことで、琉球大学が1950年に米国民政府（事実上の軍政府）により、沖縄の戦後復興のためのリーダー養成大学として設立された。1957年には、本学院が、当時の沖縄キリスト教団首里教会の一画を教室として設立された。当時の沖縄の諸教会の祈りを支えに、沖縄キリスト教団理事長・首里教会牧師仲里朝章氏の情熱と、かつて米国で実業家として成功した宣教師クライダー氏の高額献金をベースに諸教会・地域社会の志と、県外の有志によって、念願のキリスト教学校の礎が据えられた。1年間は各種学校として認可を受け、2年後に「財団法人沖縄キリスト教短期大学」として認可され、通称「キリ短」と呼ばれていた。後に琉球政府から「保母養成校」を委嘱され、続いて「英語科」が設置された。その後、県内で大学が次々と設置されたが、現在の県内大学は、以下の通りである。国立大学法人琉球大学、県立看護大学・芸術大学、公立名桜大学、私立の3大学と2短期大学がある。

本学院設置の目的は、太平洋戦争で沖縄の働き人の大多数を失い、人間も自然もボロボロになった郷土の再建を担う人材を育成する大学の設置であった。当時の沖縄の教会のリーダーたちは、郷土再建のモデルを北欧に求め、大学のモデルを米国建国の基礎を築いたキリスト教大学に求めた。人材の育成にせよ、大学の在り方にせよ、モデルが必要であるが、当時の沖縄のキリスト教リーダーたちは、キリスト教を建学の精神とするモデルを東京在のA学院に求めていた。同時に、自分を映し出す鏡が必要であり、意思疎通のできる関係が必要と考えていた。沖縄が日本復帰する前の1969年5月22日に、本学院の「キリスト教学校教育同盟」への正式加盟が認められた。沖縄キリスト教学院のような地理的孤立状態にあると、建学の精神が大学の教育にいかに重要で、大学教育の姿勢と教育活動に大きく影響することの認識が希薄になりやすい。キリスト教大学は、理事長、学長をはじめ、一人でも多くの構成員が同じ使命感に満たされて初めて、使命共同体としての教育の業を推進していけると確信している。一人一人の構成員が大学の在り方を左右する重要な責務を担う責任を共有したい。このことは、同盟の在り方が地方にあって孤軍奮闘しているキリスト教大学の道に勇気を与える道しるべの働きが、期待されている。特に、「道徳教育のカリキュラム化」に対しては、要注意である。

〈沖縄キリスト教学院理事長、教育同盟理事〉

2014年度教研中央委員会

―玉川聖学院で開催される―

「道徳の教科化」について意見交換

第1回教育研究（教研）中央委員会が、2014年12月26日午後12時半から5時まで、東京の玉川聖学院中等部・高等部会議室で開催され、担当理事・委員・事務局計21名が出席した。

小暮修也教研担当常任理事（明治学院）より開会祈祷と挨拶があった。

現政権の教育再生実行会議の下に道徳の教科化・グローバル人材の育成・大学のガバナンス改革などの提言が出てきている。キリスト教学校として、これらのことについて明確な違いを示していかなければならない。また、少子化や受験生減の中で学校を再点検して魅力あるものにしていく必要がある。そのためには教職員がお互いに協力して危機感とビジョンを共有することが大切である。教研は同盟の柱であり、教研が先導してこのような課題に取り組んでいって欲しい。

事務局より教研中央委員会のあり方の確認と「道徳の教科化」対応のためのプロジェクト委員会発足等についての報告があった。

教研中央委員会は、本年度は教研テーマを決定する年度ではないので、9月の中央委員会は開催せず、部会の委員長6名による責任者会議が開かれた。現在28名で構成されている委員は4つの地区（東北・北海道、関東、関西、西南）から選出された6つ（大学、中高、小学、事務職員、教職員後継者養成、聖書科）の部会に所属している。3つの部会を兼ねている人もいるが、できるだけ重ならないようにする。地区から選出されているので、委員が欠席の場合は地区から代替の人が出席するようにして欲しい。

全体会では水口洋委員（玉川聖学院）の司会にて「道徳の教科化」について情報・意見交換をした。

政府が示している道徳教育の4領域24項目について、キリスト教学校教育はその内容をすでに網羅していると自負している。これらの項目について独自の対応、解釈の例示を文言化できるのではないか。教科として聖書科だけが対応するのではなく、ボランティア・国際交流など対応できる学校行事の活動実績も豊富にある。道徳教育をキリスト教教育に読み替える対処療法には限界があるが、今後同盟として対応策を情報共有していきたい。今まで道徳教育は公立では担任教師が、キリスト教学校では聖書科が代替してきた。今後は聖書科だけでなく、担任となる一般教師にも広く「道徳の教科化」について意識化していくことが大きな問題である。

最後に山本真司委員（同志社）の閉会祈祷をもって閉会した。

小野淳子
〈恵泉女学園中学校・高等学校事務部、教育同盟教研事務職員部会委員〉

臨時理事会・評議員会を開催

2014年度社団および維持財団臨時理事会、維持財団臨時評議員会が2月24日に東京都新宿区の桜美林大学四谷キャンパス地階ホールで開催された。

今回は、理事・監事の辞任に伴い、財団の補欠理事・監事の選任、かつ社団の総会に提案する補欠理事・監事の候補者の選出を行った。また、社団・財団の合併契約承認の決議を行った。

加盟校動静

広島女学院
2014年11月30日付けで黒瀬真一郎氏が理事長・院長を退任、12月1日付けで理事長に藤本黎時氏、院長に湊晶子氏（大学学長兼務）がそれぞれ後任に就任。

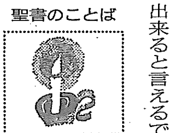
西南学院
2014年12月14日付けでG.W.バークレー氏が大学学長を退任、12月15日付けでK.J.シャフナー氏が後任に就任。

関東学院
2014年12月20日付けで森島牧人氏が学院長を退任、12月21日付けで小河陽（あきら）氏が後任に就任。

<3月号目次>

▶キリスト教活動についてアンケート 〈7～2面〉
▶キリスト教教育者物語 〈6～3面〉
▶韓国基督教学校聯盟総会 〈8面〉
▶キリスト教Q＆A 〈〃〉
▶就職支援登録について 〈〃〉
▶公募、行事等予定・案内 〈〃〉

聖書のことば



鈴木伸明

「わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない」（ヘブライ人への手紙12章5節）

創世記には、神によって初めて義と認められたアブラハム（アブラム）旅立ちの物語があります。アブラハムはカルデアのウルからハランを経て約束の地カナンまで、約1500kmの道のりを歩きました。

住み慣れた土地を離れ、神に従ったアブラハム、到着後は困難のない日々が訪れたかと思えばさにあらず、飢饉がこの地方を襲い、アブラハムはエジプトへの一時移住を余儀なくされました。神に従う道は、さらなる困難への道でもあったのです。

旧約聖書に登場する預言者は、悪を行う人々に耳の痛い言葉を語らねばなりませんでした。命に危険が迫る中、預言者たちは語り続けましたが耳を傾ける者は僅か、人々は耳触りの良いことを語ってくれる偽預言者の話しか聞こうとしませんでした。その結果彼らは国という大切な拠り所を失ってしまいます。正しい預言者と偽預言者は、困難を担おうとしているかどうかで区別することが出来ると言えるでしょう。

一世紀最大の宣教者であるパウロも困難を担った人でした。コリントの信徒への手紙二11章24～25節には、「ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました」と書かれています。この手紙が書かれた時、パウロはローマへの旅を含む全旅程のまだ半分にも到達していませんので、その困難は筆舌に尽くし難いことだったでしょう。

彼らは皆不幸だったのでしょうか。聖書は一貫して彼らの日々が恵みであったと語っています。困難の向こうに真の恵みと喜びがあり、彼らはそれを信じて命を懸けて歩み続けたのだと言っているのです。

近年の若者は困難をなかなか担おうとしないと言われます。キリスト教教育を担う私たちが、困難にしっかり立ち向かっていこうとする生き方を生徒たちの前で出来ているかどうかが、今問われているのではないでしょうか。

〈立教新座中学校・高等学校チャプレン〉

お知らせ

キリスト教学校教育同盟
2015年2月6日　常任理事会

東日本大震災による被災に対する支援・援助金について

教育同盟加盟校から送られてきた寄付金について、これまで教育同盟がまたその後は関東地区協議会が窓口となって被災校に送金を行ってきました。

更にこれまで以上に細やかな支援を行うことから、2015年4月1日以降は各校がそれぞれの関係の支援先に直接送金することとなりました。これまでの支援に感謝申しあげますと同時に、今後とも継続的な支援を宜しくお願い申しあげます。

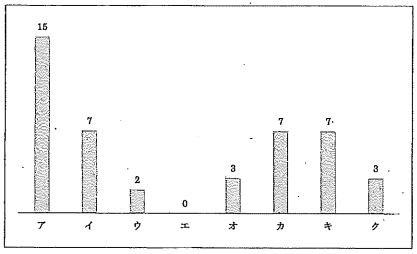
一般財団法人キリスト教学校教育同盟維持財団による公益目的支出計画の寄付先について

2013年度より、公益目的支出計画に従って、年間100万円（1校25万円4校）の寄付先4校の決定に際し、これまでは内閣府の指導に従い、教育同盟の活動の中でより公益目的性が認められる「教職員後継者養成パイロット大学」に送金しておりました。

2015年度より、下記の手順で寄付先を決定することを2014年度の総会で報告しておりますが、ここに改めてお知らせいたします。

1. 教育同盟の事業目的に沿った活動を推進して行くうえで、寄付金が活かされる送付先を各地区協議会から1校ないし2校の推薦を受ける。なお、推薦は、5月の定例常任理事会の開催日までに事務局に連絡することとする。
2. 常任理事会では、推薦を受けた数校の中から4校を決定し、理事会に報告し、送金する。
3. 詳細に関しては、常任理事会で決定する。

（3面よりつづく）

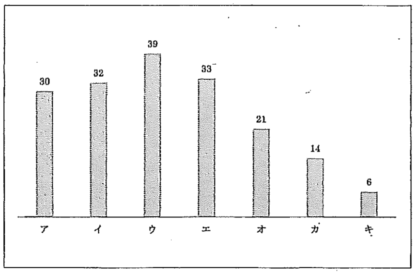


（キ）活動先：三陸の被災地、教派関連教区・地区
（その他）チャイルド・ファンド・ジャパン（2）、地域クリスマス会、ギデオン協会、フィリピン、海外キリスト教団体、学生YMCA、他

12　11の回答について、具体的にどのような活動かお答えください。
- 学生による聖書研究会
- 教会の特別伝道礼拝、刑務所クリスマス、特別支援学校でのハンドベル演奏や交流
- 地元の教会との連携で地域クリスマス会を共催
- 教派に関わらず近隣教会の牧師を招き、互いの礼拝や宗教活動を紹介・交流
- 他のキリスト教学校と合同のサマー聖書キャンプを開催
- 教会との懇談会で青年伝道を中心に話し合いと交流の時を持つ
- 地区キリスト教協議会の諸活動に参加
- 子どものキャンプを地域教会と合同で行う
- 地域教会での聖歌隊の合唱奉仕、伝道礼拝・クリスマス礼拝等の奉仕等
- 教派を問わず地域の教会の牧師を連携し、年一回キャンパスミッション懇談会を開催
- 地域の教会とカルトに関する勉強会を開催
- 他大学との合同チャプレン会議
- 海外ボランティア
- 大学間連携災害ボランティアネットワーク参加
- 学院のキリスト教教育に携わる者と近隣教会の教職者有志によるキリスト教教育研究会を開催
- YWCAとの交流会
- ギデオン聖書贈呈式
- 被災地域へのボランティア活動
- 地方へのスタディツアー
- 海外への教育資金支援

13　学生が主体となって行っている特別な活動がありましたら具体的にお書きください。
- 聖歌隊、ハンドベルクワイア、聖書研究会、ボランティアグループ等は学生が運営し、学内の礼拝や地域教会等で活動
- 聖書研究会
- クリスマス関連行事（イルミネーション、飾り付け、祝会等）
- 海外で学校の建築や健康教育等のボランティアを行う
- 学生宗教部におけるサマーキャンプ
- 卒業予定者を対象にした卒業リトリート
- 野宿生活者支援
- 新入生オリエンテーション
- 被災地でのボランティア活動
- 春・秋にリトリート
- コミュニティサービス、福祉実習、海外体験等のチャペル報告
- キリスト教学生会による伝道集会、セミナー、修養会等
- キリスト教主義大学ジョイント8.6平和プログラム
- チャプレン主導のもと、学生による礼拝委員会が礼拝における諸手続などを行う

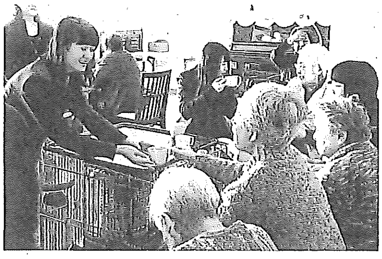
14　今後貴校のキリスト教活動の推進にあたり大切だと思われるものは何ですか。
（ア）宗教主任・チャプレン・聖書科教員のリーダーシップ
（イ）学内支援体制の整備、または充実
（ウ）学内の教職員のキリスト教活動への理解促進
（エ）中心的な役割を担う生徒（学生）の育成
（オ）地域教会との連携
（カ）他のキリスト教主義学校との連携
（キ）他の団体との連携



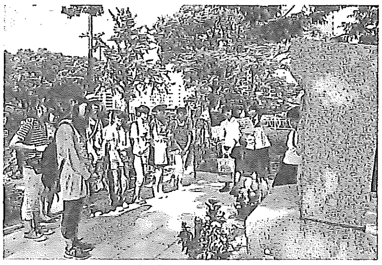
（その他）スタッフがクリスチャンであること、活動費の確保、学長・宗教主事・委員のチームワーク、海外キリスト教学校との連携、他

15　貴校において「キリスト教活動」はどのような位置づけですか。
- 建学の精神を具体的に表すもの。
- 大学のすべての式典と行事には礼拝がある。
- 建学の精神の継承、教育理念の涵養、人材教育に不可欠のもの。大学事業計画の策定の中長期最上位目標。
- クリスチャン学生には信仰を培い実践する機会であり、ノンクリスチャン学生には聖書と聖書に基づく信仰に触れ、体験する機会となっている。
- 教育理念において聖書・キリスト教はすべての根底あり、知識だけではなくキリスト教活動を体感することで理解を深めていくことを願っている。
- 全体的にみれば断片であるが、教育の中で切り離すことのできない、どの活動にも通じているもの。
- 優先順位が一番のスタート。
- キリスト教大学の校風と伝統を形成し続けていく上で中心的位置を持つ。
- 他の委員会と同じ位置で特別な位置づけはしていない。
- 活動の中心は毎日行われている礼拝である。
- 全学的なものになっていない。
- キリスト教精神に基づく世界の市民を養成するための活動の一つであり、本学の成り立ちや伝統、歴史といったものを再認識させてくれるもの。
- キリスト教による人格形成を基礎として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、世界文化の創造と人類の福祉に寄与する。
- キリスト教学を必修科目とし、キリスト教センターを設置して宗教主事・キリスト教学担当教員の主導によって、日々の礼拝、宗教週間、リトリート、昼の集会など様々な学生交流の取り組みを行っている。
- 人材育成において大切な位置であり、特に礼拝は大学全体を一つにまとめる力にもなっている。
- さまざまなキリスト教プログラムが一人ひとりにとって生きる意味を問う機会となり、それらが将来に向けての「心の糧」となるように願っている。
- チャプレンの仕事である。
- 学内活動の一部となってしまっているのが現状。
- 神から託された生命を生涯かけて担っていく人材、自分と他者の「いのち」を大切に活用する人材、家族、地域社会、国際社会のためにも貢献できる人材を育てること。

16　キリスト教活動が学生の成長にどのような影響を与えていると思いますか。
- 見えるもの、見えないものいずれのレベルでも学生自身の人生観に良い影響を与えている。
- 入学者のほとんどがノンクリスチャンであるが、日々の学生生活や保育の実践活動において、神の存在について考える、身近に感じるという機会にはなっていると思う。
- 建学の精神とタイアップした隣人愛を喚起し、自立した責任ある社会人へと成長していく一助となっている。
- 直接・間接に学生のみならず教職員全体にも、特にその人間関係において重要な影響を与えていると思う。


老人ホームでのボランティア

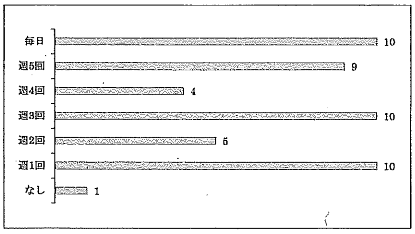
- 自らの生き方について考える時間が、社会に出た時に勇気を持って人生を切り開いていくアイデンティティの形成を支援しており、学生一人ひとりが奉仕の精神を持って社旗に貢献し、真の平和を創り、実践する良心的な人格を成長させてゆく。
- 様々な活動を通して自分を見つめ、仲間と向き合い、互いに受け入れ合う経験を積むことができているようだ。
- 自己の価値発見、共に生きる視点の重要さ、国内外の課題の発見など大きな影響を与えている。
- 濃淡があり、ある者は関わりがあるが、無い者もいる。
- 真実の人間として何の前には頭を垂れ、何に対しては従順であり、何に向かっては抵抗をなすべきかを弁えさせる。
- 本校の教育理念は他校に比べてはるかによく学生に浸透している。そのことを通して学生たちが優しさや善意の涵養によい影響を与えている。
- 在校生、卒業生の心に校訓が刻まれ、隣人に仕えるというキリスト教精神が必ずや良い影響を与えていると確信している。
- 就職後に出会う様々な困難に対して、讃美歌や聖書の言葉が励ましとなったと聞く。
- チャペルを通して自らを「個」としてとらえ、また他者も「個」であることを知る機会を得ており、自他尊重の精神を育んでいる。
- 隣人を愛することのできる豊かな人格形成が養われ、21世紀を生きる社会人として相応しい教養を身に付けることに寄与している。
- マナーが向上すること。
- 祈ることの素晴らしさと大切さを体験すること。
- 学院の歴史の延長上に自分たちが今教育を受けているという自覚を促す。
- まだまだ種まきの段落。途絶えないように続けている。
- 在学中に教会につながる学生が少なくない。学生同士が互いに信仰やキリスト教への意識を高めようとする雰囲気がある。
- 聖書の言う「人間の存在意義」「善悪のわきまえ」「人生の最終目標」を学ぶことができる。
- 少数者の尊重の意義を伝えること。
- 影響についてはわからない。
- 人間としての基本的なあり方と姿勢を問い続けることで、自らの生き方を探し、実践していくことを大切にしている。
- リーダーシップが養われ、また、協力して働くことも良い学びとなっている
- 自分の命の経営（私有物でない資金を託され、それを活用すること）を真剣に考えるようになさしめる。
- 聖書に触れることで選択肢が増え、判断のよりどころとなっていく。


広島平和学習

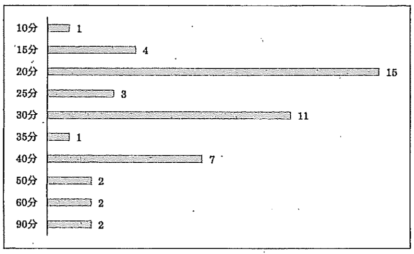
17　今後のキリスト教活動の整備に向けて、その他ご意見がありましたらお書きください。
- もっと情報交換の場があると良い。
- 異なる宗教的背景をもつ教職員といかにキリスト教教育の目標を共有しうるかが今後の課題である。
- キリスト教学校が連携してリトリートやボランティア、ワークキャンプ等を展開することができればよい。
  その際、都市部と地方の学生たちの出会いの場が設定できるのであれば双方に学ぶことは多いのではないか。
- キリスト者の教職員を増やす努力が必要である。
- ノンクリスチャン教職員の理解と連携が必要なため、少しずつ着実に進めていきたい。
- 良いチャプレンを担える優秀な教員の確保、センターのスタッフをクリスチャンで構成できるように努めたい。
- 福音に基づきながら、また同時に時代に則した対応をしつつ、より活動的な取り組みを展開したい。
- 組織作りと信用度のアップ。
- チャペルの出席等を引き続き重視して扱いたい。
- キリスト教教育が全学的プログラムになるためにはどうしたらよいか。委員会のチームで取り組みを積み重ねていきたい。
- 学生主体の活動や地域ボランティア活動の推進。
- 礼拝で踊りなどのパフォーマンスを取り入れ、全身で礼拝することを習得する。
- 年々学生たちが自分の守備範囲以外のことに関心を向けることが少なくなっているようだ。できるだけ学生たちの閉ざされた殻を打ち破り、広い世界、新しい価値観との出会いを提供していきたい。
- 専属の部署、専従の職員、学生たちが普段から集える場所の必要性を強く感じる。
- 宗教施設の整備と活動へのサポート・体制を充実させてゆきたいと思う。
- キリスト教活動というより、むしろ自校の活動の一環と考える必要がある。
- キリスト教主義大学が連携して、国際貢献、ボランティア、修学支援等、メリットを社会に訴えるとよいと考える。
- 情報交換等のために全国宗教主任研修会等宗教主任の交流の場や、国際感覚涵養のために海外の大学との交流が必要だと思う。
- キリスト教活動の主体になる者はその本質をはっきりと守りながらも、新しい世代に対する大胆な変革をもって新しい賛美、活動、礼拝の流れなどを取り入れても良いと思う。
- 平和教育・人権教育の推進。
- キリスト教に出会って良かったという学生満足度の向上（キリスト教の世界観や人間観への理解）。
- 近隣教会・所属教派・教区との連携強化。
- 新たな試みとして、入学前に本学のキリスト教活動に対する理解を高めてもらうために、学園内の高校からの推薦入学予定者を対象とした集いを開催する予定。
- 学生が在学中に教会と関係をもってもらうため、教派を超えて近隣教会との関わりをより密にする必要がある。また学生が神と出会う良いきっかけを与えるため、いろいろな方法を用いての宗教活動、様々な形式での特別礼拝を行うことは良いと思う。
- 是非教育同盟でさまざまな取り組みを紹介してほしい。
- 学院全体の宗教活動を担う宗教センターの設置を願っている。また幼稚園から大学までの教育プログラムである学院スタンダードを整備し、その中心に宗教教育を位置づけたい

（4面よりつづく）

1　礼拝が行われる頻度はどれくらいですか。

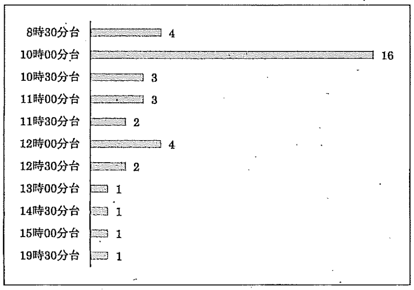


2　礼拝の時間はどのくらいですか。



（その他）20～30分、20～40分、20～45分、45～50分

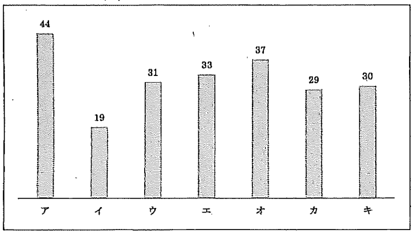
3　礼拝の時間帯はいつですか。



（その他）午前中、1時限と2時限の間、昼休み、曜日によって異なる

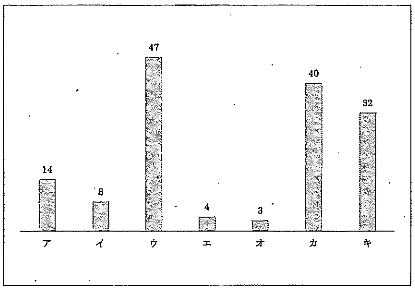
4　礼拝の時間に他の講義等が行われていますか。
いる　10（授業科目を兼ねる―1）
いない　39

5　礼拝での説教はどのような方がされますか。
(ア)宗教主任・チャプレン　(イ)聖書科教員
(ウ)教員(信仰の有無は問わず)
(エ)教員(キリスト者)　(オ)近隣・関係教会牧師
(カ)外部講師　(キ)学生



（その他）　事務職員（13）、内外の聖職者、法人役員、守衛、小中高教職員、卒業生、元教職員、他

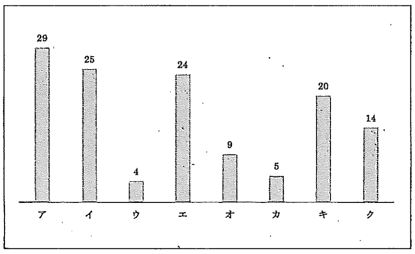
6　どのような特別礼拝を行っていますか。
(ア)イースター礼拝　(イ)ペンテコステ礼拝
(ウ)クリスマス礼拝　(エ)花の日礼拝
(オ)宗教改革礼拝　(カ)入学・卒業礼拝
(キ)創立記念礼拝



（その他）　召天・逝去者記念礼拝（5）、キリスト教育週間関連礼拝（4）、クリスマスツリー点火礼拝（4）、収穫感謝礼拝、新年礼拝、年末終業年始始業礼拝、昇天日礼拝、日曜日入試主日礼拝、落語チャペル、他

7　学校が主導して行っている活動・行事がありますか。
はい　45　いいえ　4

・はい　と回答された場合：それはどのような活動ですか。
(ア)聖歌隊　(イ)ハンドベルクワイヤー
(ウ)ゴスペルクワイヤー　(エ)聖書研究会
(オ)学生団体(幅広い活動を行っているもの)
(カ)手話サークル　(キ)ボランティア活動
(ク)学外行事

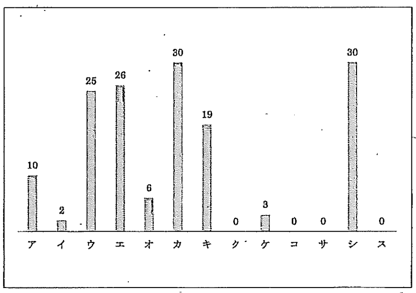


（その他）　カフェ、キャンパス見学会、キリスト教週間の企画、キリスト教学校出身者歓迎会、オルガン講座、学生宗教活動委員会、聖書植物園、他

8　7（ク）について、具体的にどのような行事か、お答えください。
・ハンドベルや聖歌隊が様々な病院・教会・施設の諸行事での奉仕
・全学奉仕日として近隣の道路、利用駅、福祉施設でのゴミ拾いや草刈り等清掃ボランティア
・学生対象の修養会の実施、宗教活動委員会オリエンテーションキャンプ（入学前キリスト教活動オリエンテーション）
・海外スタディツアー・プログラム
・食を考えるキャンプ
・修道院体験合宿
・社会福祉法人へのワークキャンプ
・チャペルや地域教会での聖歌隊の奉仕
・サマーカレッジ・キャンプ
・東日本大震災ボランティア
・修養会（リクルート）

9　(A)キリスト教活動の委員会や宗教センターは設置していますか。
はい　46　いいえ　2

(B)・はい　と回答された場合：どのようなメンバー構成ですか。
(ア)学長・学部長　(イ)学科長　(ウ)チャプレン
(エ)宗教主任　(オ)聖書科教員
(カ)教員(信仰の有無は問わず)
(キ)教員(キリスト者)　(ク)外部牧師
(ケ)宣教師　(コ)養護教諭
(サ)カウンセラー　(シ)事務職員　(ス)学年主任



（その他）オルガニスト、学生部長、教員サポーター、学生、ミッションセンター部長、他

・いいえ　と回答された場合：今後の設置を予定していますか。
はい　0　いいえ　1

10　(A)キリスト教教育についての教職員対象の研修を行っていますか。または行ったことがありますか。
はい　30　いいえ　18

(B)・はい　と回答された場合：
(ア)どのような研修を行いましたか。
・教職員研修会
・新人職員研修会でのキリスト教活動のオリエンテーション・ガイダンス
・リトリートや修養会
・教職員を対象とした聖書の学び
・教育同盟主催の研修会への派遣
・建学の精神研修会
・学院・大学宗教委員会研修会
・教職員向け黙想会
・礼拝奨励・賛美歌指導等

(イ)今後継続の必要性を感じますか。
はい　28　いいえ　0

・いいえ　と回答された場合：今後研修をする予定がありますか。
はい　6（実現を願う　2）　いいえ　7

11　学校外の団体と連携して行うキリスト教活動はありますか。
はい　26　いいえ　20

・はい　と回答された場合：どのような団体との連携ですか。
(ア)地域教会
(イ)他の学校(キリスト教主義学校)
(ウ)他の学校(国公立学校)
(エ)他の学校(特別支援学校)
(オ)他の教育機関(海外提携校など)
(カ)他のキリスト教団体(KGK、CCC、hi-b.a.、他の教会の伝道活動)
(キ)災害等のボランティア活動
(ク)地域の公共施設

（2面につづく）

キリスト教教育者物語 ㉖

近江兄弟社創立者 ヴォーリズ

近江兄弟社学園

近江兄弟社創立者、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880～1964）は1905年、滋賀県立商業学校の英語教師として近江八幡にやってきた。2年間の教師生活の後、建築設計事務所（現一粒社ヴォーリズ建築事務所）とキリスト教伝道のための近江ミッション（現財団法人近江兄弟社）を立ち上げ、また伝道活動資金としてメンソレータムの日本での製造販売（現株式会社近江兄弟社）を米国のハイド氏によって託されました。

1919年、ヴォーリズは一柳満喜子と結婚し、満喜子が自宅で開始したプレイグラウンドが清友園幼稚園となり、同労者吉田悦蔵が設立した勤労女学校は、後に近江兄弟社女学校となり、戦後、幼・小・中高を併設する近江兄弟社学園となります。

ヴォーリズの終生の目標「神の国建設」とは「絶対平和主義」を指しており、その根拠はイエスの教え「敵を愛し、自分を迫害する人のために祈りなさい」にあります。1908年、ヴォーリズは欧州各国の軍事拡張の記事を読んで戦争反対の強い衝動を感じ、「HEIWA」（平和）と題する讃美歌を作りました（「讃美歌」236番）。また、第二次世界大戦下、アメリカの日本本土攻撃が熾烈になり始めた1944年12月「アメリカに訴える」という次のような内容の詩を米国友人に送っています。

アメリカよ、アメリカよ。かつて勇気と自由の故郷であった国、アメリカよ。時の呼びかけに目覚めよ。権力への野望の足かせを払いのけよ。自由を愛する汝のはじめの愛に立ち返れ。弱き国々を支配し、遠き国々を略奪する列強に組するなかれ。

ヴォーリズの「絶対平和主義」の精神を現代に具体化してみると「平和」、「いのち」、「環境」ということになります。これを本学園宗教教育の基本方針として若い人々に伝えて行きたい。　池田隆男
〈近江兄弟社学園宗教センター長〉

結婚当時のヴォーリズと満紀子

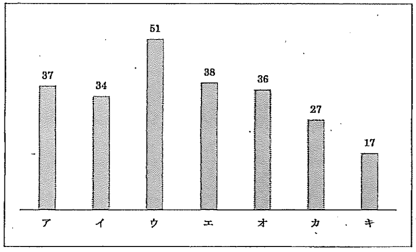
賀川豊彦（左）・吉田悦蔵（右）と

（5面よりつづく）

・日本キリスト教協議会（NCC）のキリスト教教育週間に積極的参加
・特別支援学校へのキャロリング奉仕
・ユニセフやJOCSを通してのボランティア活動
・地域の公立小学校と協力して清掃活動やバザーでの被災地製品販売活動
・関係教派との礼拝体験
・韓国のキリスト教学校との交流

12　生徒が主体となって行っている特別な活動がありましたら具体的にお書きください。
・早天礼拝、生徒礼拝
・クラブボランティア（テニス部の障害者テニスの会の手伝い等）
・絵本を集めてミャンマー、ラオス、フィリピンへ贈る。
・東日本大震災被災地支援のマラソン大会
・募金活動　・宗教委員会　・聖劇サークル
・母の日カーネーション販売　・1年生修養会
・賛美集会　・関連学校との音楽会
・教室からチャペル入場までの移動を主導
・特別養護老人ホームでのボランティア
・学校周辺の清掃活動　・生徒の証の会　・祈祷会
・YWCA活動　・聖書研究会
・クリスマスツリー点火式
・海外研修旅行の現地教会訪問プログラム
・ハイスクールYMCA　・聖歌隊
・ハンドベルの活動
・アコライトによる礼拝奉仕、式典準備、チャペルの清掃、道具の手入れ等
・クリスマスプレゼントを養護施設に贈呈
・アジア研究会

13　今後貴校のキリスト教活動の推進にあたり大切だと思われるものは何ですか。
（ア）宗教主任・チャプレン・聖書科教員のリーダーシップ
（イ）学内支援体制の整備、または充実
（ウ）学内の教職員のキリスト教活動への理解促進
（エ）中心的な役割を担う生徒（学生）の育成
（オ）地域教会との連携
（カ）他のキリスト教主義学校との連携
（キ）他の団体との連携



（その他）キリスト教教員の増加、宗教センターの設置、校長のリーダーシップ

14　貴校において「キリスト教活動」はどのような位置づけですか。
・最重要事項であり、教職員協力を感謝している。
・愛と奉仕の精神を体した人学形成をするための教育活動。
・生徒が実際に触れ合い参加できるキリスト教教育の具体的な実践の場。
・キリスト教に基づく人間理解（弱さの自覚）。人間を超えたものを畏れる心をもち、教育活動を行う。
・建学の精神の具現と継承の場。
・地方のキリスト教学校では、不本意ながらキリスト教に偏見をもって入学する生徒もいる。生徒の目線に降りて、親しみやすい形でキリスト教を伝えて行くことはとても大切である。
・宗教部が担うもので、他の教員の意識はやや低いように感じる。
・行いを通して生徒が社会に目を向け、隣人と出会い、自らの生き方を育む場所。
・教育活動の根幹・基盤である。
・人生において不可欠な分野である。
・教科指導・生活指導の根底となる要である。
・教員間ではわが校の教育の土台はキリスト教教育であるという共通認識がある。
・本校には宗教主任や聖書科がなく、生徒たちにどのように福音信仰を伝えるかが大きな課題。
・毎朝の礼拝、宗教行事、週1回の聖書授業がベースである。
・建学の精神にかかわる根本的なものであるが、具現化・プログラム化は難しい面がある。
・根幹は礼拝であり、最も大きな位置。
・チャプレン・聖書科が中心で、全体的な協働意識が少ない。
・国際的な視点に立つキリスト教学校として建学の精神を再認識し、グローバル化する現代の教育に努めるため、過去と現在と未来を結ぶための活動。
・行事やプログラムは学校の活動の一つとして位置づけはしっかりしているが、優先順位があるときは他に譲らざるを得ないときもある。
・日曜日の教会出席を奨励しており、約3分の1の生徒がほぼ毎週出席している。
・祈ることが日々の学校生活の中心である。
・クリスチャン教員が少なくなってだんだん軽くなってきている。
・主日は教会生活を守れる環境としている。
・その学校の生徒として常に意識してもらいたい姿勢を養うもの。
・生徒会活動や平和活動の基礎を支える心を育てる教育。
・キリスト教教育なくして学校はなりたたないものと常に言っている。
・生徒が社会の一員としての責務を担っている自覚をもつための活動。

15　キリスト教活動が生徒の成長にどのような影響を与えていると思いますか。
・キリスト教価値観に触れて、自分の人生観だけではなく社会的に弱い立場の他者に対する考え方等にも影響を与えている。
・毎日の礼拝を通じて自然にキリスト教の考え方がほとんどの生徒の身についている。
・隣人を思いやることができ、愛をもって奉仕することの喜びを感じることができる生徒が育っている。
・神に愛されている自分を知っているので、自己肯定感が強く、人生に対して前向きである。
・内省する力が付いている場合がある。
・人生の価値観、世界観、人間観を育んでいる。その思考力と行動力の成長の場となっている。
・広く世界を知り、世界に向けて奉仕する生き方を志すことができる。
・すぐには結果が出なくとも、いつかは大きな実りを結ぶと信じている。
・キリスト教信仰への入信。
・教科では得られない心の成長やものの考え方ができるようになる。人の話を聞く姿勢ができる。
・進路選択や職業選択に影響を与えている気がする。
・毎日歌う聖歌・讃美歌が卒業後も影響を及ぼし、生涯の心の支えになっている。
・深い思考と霊性を養い、世の中の価値観に迎合しない人間を育成する。
・神を信じるとこまでは行かずとも、神の存在を認めている生徒は多いようだ。
・自立の時期にある生徒の心を豊かに育てている。
・キリスト教を通して交流できる人が地域、社会、国内外に多数おり、つながり、ひろがりを体験できる。
・一部を除いて大半の生徒にはあまり深い理解を得られないまま卒業を迎えてしまっているように感じる。
・生徒の視野を広げ、他者のために生きることの意義を考え、実践することによって豊かな心を育み、将来における生徒一人ひとりの生き方の基盤形成に大きな役割を果たしていると理解している。
・自分なりに神と向き合い、様々な疑問や関心を持つようになる。それは聴いて学ぶときから、自分で考え、それぞれに答えを導きだす始まりの時である。その積み重ねが、内面を成長させる。
・人生の節目にキリスト教教育で学んだことを必ず活かすことができる。

16　今後のキリスト教活動の整備に向けて、その他ご意見がありましたらお書きください。
・教員の世代交代が進む中で、若い教員にどのようにキリスト教教育を理解してもらい、それを共通の教育理念としていくかが課題である、
・各校間で情報交換、教育活動の交流、ボランティア活動等の共同実施を希望。
・右傾化が危惧される時代に、キリスト教学校がもつべき姿勢、取り組みがさらにいっそう共有され、守れれば良いと考える。
・若い教員にクリスチャンが少なく、いかに後継者を育てていくかを考えている。
・教育同盟内の他校交流の機会を増やし、仲間作りを広げていきたい。
・グローバルな時代を迎えて改めてキリスト教活動とは何かを問う研究会があればと思う。
・隣人愛の実践に積極的に自主的に取り組める生徒が成長していく視点を明確にする活動を目指したい。
・日々の祈りと礼拝を大切にしていきたい。
・道徳の教科化問題の情報提供、学びの機会を定例的に行って、情報交換ができる環境を整えてほしい。
・カトリック学校との協調や学びが今後必要である。
・聖書の授業だけでなく、宗教的・福音的なものの見方をどう共有していくかが大切である。
・宗教主任・チャプレン等の研修会を企画してほしい。
・キリスト教教育のための時間を確保する。
・クリスチャンでない教職員にクリスチャンでなくてはいけないような学内の雰囲気作りはしたくないが、キリスト教的な考え方を大切にしていくために、意識の向上をどのようにいいか思案している。
・誰でもが持ち得ない知恵、経験、人材を共有の財産とするために、教育同盟や地域のキリスト教センターが調整してリーダーシップをもって支えていく必要が出てくると思う。

東北被災地でワカメの作業手伝い

大学・短大

・発送数　70　回答数　50　回答率　71.4%

回答者：学院長、学園長、学長、宗教部長、宗教総主事、宗教主任、宗教主事、チャプレン、キリスト教教育主任、宗教センター、キリスト教教育委員会、キリスト教センター長、宗教部、宗務課長、総務課長

（3面につづく）

キリスト教教育者物語㉕

ルーミス

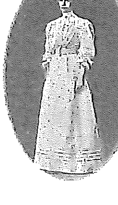
横浜共立学園

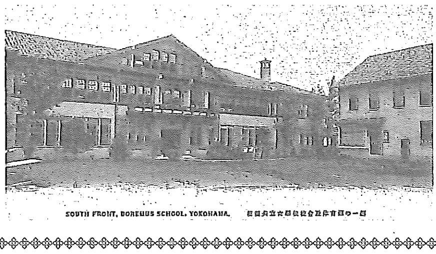
まだ女子教育がほとんど顧みられない1871年、3人の女性宣教師プライン、ピアソン、クロスビーによって本校は創立された。幾多の困難を越えて、家庭的で温かい環境の下に自立した女性を育てる教育の基礎が据えられていった。後継者として1901年に招かれ第4代校長に就任したのが、当時まだ24歳のクララ・D・ルーミスであった。

クララは米国聖書協会の代表となった父ヘンリー・ルーミス牧師に伴われ3歳で来日、教育を受けるために帰米するまで日本で育ったため、日本への温かいまなざしは終生変わらなかった。就任当時、本校は校舎が腐朽した全校生徒数90余名の小さな学校であった。生徒募集もままならず、まず校舎を建て直すことから始めなければならなかった。若い校長は米国各地を歴訪して寄付を募り、ようやく1904年に新校舎を建てることができた。この時に現在の校章の原形やスクールカラー、校歌などを制定した。また、組織を改革し学則を新たにして制服を定めた。卓抜した見識と国際感覚を持って世界平和に貢献する女性を育成すべく『西洋の社交と礼儀』を著し、今日にもその精神が受け継がれている。1923年の関東大震災ですべてを失ったが、廃墟の中から再び立ち上がり世界恐慌の嵐の中を復興募金に走った。その結果与えられたのが現存するヴォーリズ設計の本校舎である。人を育てる校舎である。

時勢の推移と学校の将来を考え、日本人校長にすべてを託し、35年間過ごした横浜を潔く後にしたわが校の「中興の祖」である。

〈横浜共立学園資料室担当〉荒木美智子

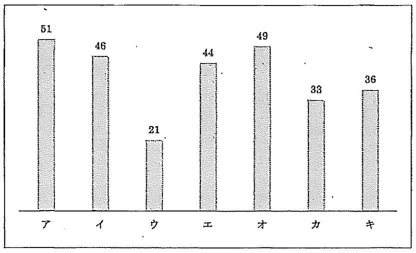

1901年



横浜共立学園本校舎と体育館（1931）

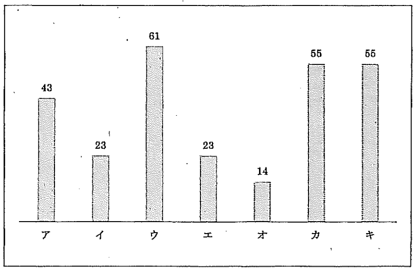
（6面よりつづく）

4　礼拝での説教はどのような方がされますか。
（ア）宗教主任・チャプレン　（イ）聖書科教員
（ウ）教員（信仰の有無は問わず）
（エ）教員（キリスト者）　（オ）近隣・関係教会牧師
（カ）外部講師　（キ）生徒



（その他）　職員（4）、理事長、学園長、学院長、大学長、校長、卒業生、神学生

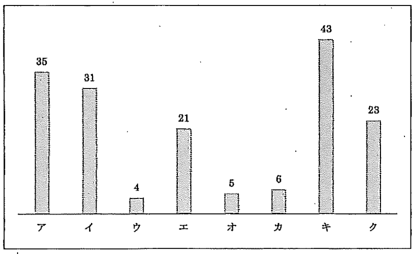
5　どのような特別礼拝を行っていますか。
（ア）イースター礼拝　（イ）ペンテコステ礼拝
（ウ）クリスマス礼拝　（エ）花の日礼拝
（オ）宗教改革礼拝　（カ）入学・卒業礼拝
（キ）創立記念礼拝



（その他）　収穫感謝礼拝（9）、母の日礼拝（9）、平和祈念礼拝、学期始業・終業礼拝、創立者記念礼拝、キリスト教教育週間礼拝、両親感謝礼拝、音楽礼拝、他

6　学校が主導して行っている活動・行事がありますか。
はい　56　いいえ　3

・はい　と回答された場合：それはどのような活動ですか。
（ア）聖歌隊　（イ）ハンドベルクワイヤー
（ウ）ゴスペルクワイヤー　（エ）聖書研究会
（オ）学生団体（幅広い活動を行っているもの）
（カ）手話サークル（キ）ボランティア活動
（ク）学外行事

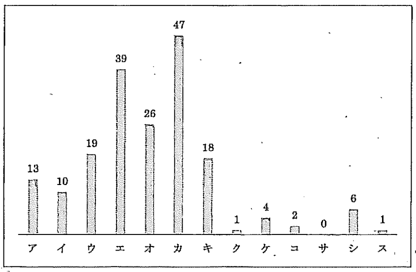


（その他）　YWCA（4）、キリスト教研究会、修養会、祈祷会、カフェ、礼拝奉仕、クリスマス祝会、他

7　6（ク）について、具体的にどのような行事か、お答えください。
・リトリートキャンプ
・教育同盟ワークキャンプ
・沖縄・広島等平和研修
・チャリティイベント
・教会、学校、社会福祉施設、病院、刑務所等の訪問・奉仕
・路上生活者への炊き出し奉仕
・東日本大震災被災地訪問
・韓国との相互平和学習
・メサイア演奏会
・サマーキャンプ
・クリスマスコンサート
・新入生キャンプ
・修道院での静想会や生徒リーダー研修会
・各種募金、キャンペーン等

8　（A）キリスト教活動の委員会や宗教センターは設置していますか。
はい　55　いいえ　6

（B）・はい　と回答された場合：どのようなメンバー構成ですか。
（ア）校長　（イ）教頭　（ウ）チャプレン
（エ）宗教主任　（オ）聖書科教員
（カ）教員（信仰の有無は問わず）
（キ）教員（キリスト者）　（ク）外部牧師
（ケ）宣教師　（コ）養護教諭
（サ）カウンセラー　（シ）事務職
（ス）学年主任



（その他）　音楽科教員

・いいえ　と回答された場合：今後の設置を予定していますか。
はい　0　いいえ　6

9　（A）キリスト教教育についての教職員対象の研修を行っていますか。または行ったことがありますか。
はい　50　いいえ　12

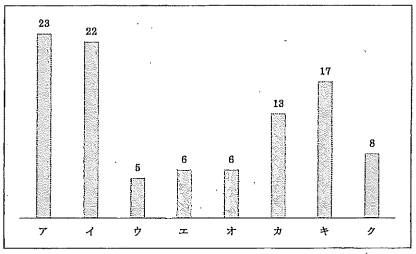
（B）・はい　と回答された場合：
（ア）どのような研修を行いましたか。
・外部講師等による講演会
・教職員修養会
・PTA修養会
・キリスト教懇談会・キリスト教教育研修会
・聖書研究会
・新人研修会
・教育同盟等の研修会派遣
・建学の精神や教育の理念の研究会
・礼拝での指導・讃美歌・献金等について
・ルーツとなる教派や創立者についての講義
・カウンセリングトレーニング
・キリスト教と国家について

（イ）今後継続の必要性を感じますか。
はい　42　いいえ　0

・いいえ　と回答された場合：今後研修をする予定がありますか。
はい　2　いいえ　6

10　学校外の団体と連携して行うキリスト教活動はありますか。
はい　45　いいえ　15

・はい　と回答された場合：どのような団体との連携ですか。
（ア）地域教会
（イ）他の学校（キリスト教主義学校）
（ウ）他の学校（国公立学校）
（エ）他の学校（特別支援学校）
（オ）他の教育機関（海外提携校など）
（カ）他のキリスト教団体（KGK、CCC、hi-b.a.、他の教会の伝道活動）
（キ）災害等のボランティア活動
（ク）地域の公共施設



（キ）の活動先：災害ボランティアセンター、YMCAセンター、三陸被災地
（その他）　YWCA（3）、韓国の教会、AHI、CBC、関連社会福祉施設

近隣公立小学校児童と東北被災地物資販売

11　10の回答について、具体的にどのような活動かお答えください。
・近隣のキリスト教学校・カトリック学校と合同で、年に一度東日本大震災被災地より高校生を招いて交流会を行っている。
・教会との懇談会
・キリスト教学校フェア
・アジアキリスト教教育基金（ACEF）を支援し夏休みスタディツアーに生徒を送っている。
・アジア学院、エマオ支援センターへのワークキャンプ
・地域教会の特別伝道礼拝や諸施設のクリスマス等のハンドベル演奏や交流会、礼拝奉仕
・平和教育の学習会や交流会
・交換留学
・被災地のワークキャンプや仮設住宅訪問
・近隣教会牧師を学校行事に招待
・地域の学校とのボランティア部との情報交換、交流、共同活動
・地域市民クリスマスの共同開催
・教区や地区のプログラムに生徒の参加、集いに会場提供、教職の教会礼拝説教奉仕等
・教育同盟地区主催のワークキャンプやイベントに参加

（4面につづく）

キリスト教教育者物語 ㉔

建学の精神の実践と学校発展に尽くしたA.M.モンク

北星学園

1887年（明治20）、S.C.スミスは札幌の地で「スミス塾」を開校しました。北星学園の創設期を歩み始めて18年後の1905年（明治38）、長老派教会伝道局から日本へ宣教師として派遣され、新榮女学校を経て北星学園の前身「スミス女学校」にA.M.モンクは着任しました。この頃、自身の健康不安を抱え学校の将来を託す後継者を求めていた創立者スミスは、モンクの着任を「これぞ、神が与えたもう後継者」と語り、以後彼女に全幅の信頼を寄せ学校の責任を委ねていきました。

1872年米国アイオワ州に生まれ、ノースウエスタン大学に入学、英仏独ラテン語、数学、哲学、政治等を学び、大学院では精神発達に及ぼす社会教育を研究、経済、哲学、聖書文学を修めたモンクは、私立学校が不安定な社会情勢（日清・日露戦争、第一次大戦、他）が続く状況下におかれるなか、累積する課題に取り組み、「新校舎建設、専攻科設置、生徒自治会立上げ、キリスト教学校教育同盟加盟」等の具体的な成果を残していきました。

モンクは「自ら資質を高めること」「教育の目標を高く持つこと」「授業の徹底」を生涯自ら実践し続けました。生徒に語った言葉「Higher, Higher, Ever Higher」、授業を受けた生徒の心に残る思い「よく準備された授業は誰でも遠いエジプトのナイルの畔まで引きずって行かないではおかなかった。」はそのことを良く表しています。そして、モンク自身が語った言葉「生徒が受けるより良い教育の為には労は厭わない」は、北星学園で働く私たちが忘れてはならない大切な言葉となっています。

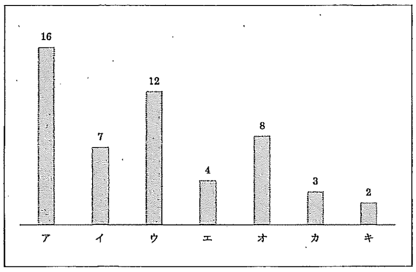
浅里慎也
<北星学園女子中学校・高等学校校長>

1906年頃

（7面よりつづく）

聖劇）
・アドベントやレント祈祷会
・バザーの際募金活動を行い、ラオスの学校に送付

13　今後貴校のキリスト教活動の推進にあたり大切だと思われるものは何ですか。
（ア）宗教主任・チャプレン・聖書科教員のリーダーシップ
（イ）学内支援体制の整備、または充実
（ウ）学内の教職員のキリスト教活動への理解促進
（エ）中心的な役割を担う生徒（学生）の育成
（オ）地域教会との連携
（カ）他のキリスト教主義学校との連携
（キ）他の団体との連携



（その他）　祈り合える教員集団、校長のリーダーシップ、教員各人の霊性の向上、一貫校内の連携、保護者の理解と協力

14　貴校において「キリスト教活動」はどのような位置づけですか。
・根幹は毎日の学校礼拝。全児童・教職員に参加を求めている。
・キリスト教教育を教育方針の中心に据える
・教育理念を実現するための基礎となるもの
・本校は教育理念として「真理を探究し、平和を創り出す人間の育成」、教育目標として「隣人愛を育む」「智恵を育む」を掲げている。これらは4つのキリスト教理念（平和、生命尊重、人類愛、自由）から導き出されたものであり、教科教育はもちろん、行事等においても、その活動が理念や教育とどのようにつながるのか明らかにするようにしている。キリスト教活動は教育の根幹をなすものである。
・キリストを教育や生活の中心に置き、キリストを模範とする。
・キリストの心を心とする。
・キリストの価値観に触れさせる。
・教学の中心を担う。
・最も大切に行われるべきだが、惰性にならず、形骸化せずに続けていく必要がある。
・対外的な活動がほぼ行われていない。教職員の約半数がクリスチャンの状況の中で、積極的に宣教活動を行うような場面がない。
・児童が実際に触れ合い参加することができるキリスト教教育の具体的な実践の場。
・単に道徳に代わるもではなく、子どもたちに聖書を基礎として創造主である神への畏敬の念を起こさせ、神と隣人への愛、善悪をわきまえる感覚を身に付けさせ、イエス・キリストにならう、神と人々から愛される品性の形成を目指すためにきわめて重要なもの。
・児童や保護者がキリストを知り、出会う機会を作るという意味においても重要。
・本校の教育の土台となるもの。具体的に知り、学び、自分を見つめる機会となる。
・建学の精神に基づく諸活動である。
・祈ることが日々の学校生活の中心ある。
・日頃からキリスト教に慣れ親しむことができるよう取り組んでいる。
・教育の柱である。
・学院創立以来最も重んじられるべきものであり、その伝統を受け継ぎ、今なお学内の教育活動の中でも根幹をなす位置を保ち続けている。クリスチャンでない者も含め、全教職員が、建学の精神の具体化のために協力し合っている。
・学内に宗教主任、聖書科教員が置かれておらず課題となっている。
・すべての学校教育活動はキリスト教教育の具現化と考える。

15　キリスト教活動が児童の成長にどのような影響を与えていると思いますか。
・情操、価値観、人間観、人生観等に大きな影響を与えていると思う。
・この世の価値観に流されず、聖書に基づいた価値観を知ることができる。
・朝の静かな時間に神を向かい合うこと、人間を超えた大きな力のあること、人のために尽くすことを知ることは子どもたちの心の成長に影響を与えていると思う。
・自分に命を与え、愛し、守ってくださる神様の存在を信じ、心から祈ることができるようになっている・隣人愛の具体化のためにどうしたらいいか考える力が養われる。
・学びの目的が自己目的に留まらず、他者の奉仕のための知識、技能を身に付けるという、学びの質の向上。
・思いやりの心を中心に人に対する接し方等精神面での成長に役立っている。
・神さまに愛され、受け入れられ、赦され、守られているということが自己を受容する大切な心の土台になっていると感じる。
・児童たちに、隣人を自分のように愛する心を養い、愛で紡ぐ人間関係を育んでいる。
・人格成長を豊かに促す。
・中高へと進む中でキリスト教から心が離れることもあるかもしれないが、立ち帰るべき場を知っていることが大事。
・成長したときに、自分の心の基礎となるものが小学校6年間でのキリスト教の学びにあると感じてもらっている。
・子どもの一人ひとりの人格に大きな影響を及ぼし、人生の岐路に立った時、夢を追いかけるとき、実際に世の中で働く時のきっかけや原動力になっている。
・神さまの愛を知ると私もあの子もそれぞれに大切な価値がある存在なのだと意識を強く持つようだ。
・社会や状況に左右されない正しい価値観や道徳観が育っているように思う。
・将来的にキリストに目を向けることがあったり、心が弱った時に「自分は一人ではない」という支えになったりすることを期待する。
・見えるものだけが大切ではなく、見えないものの中にこそ輝くべき価値があることを知ることができる。
・世界に向けた大きな視点でものを考えることができる。
・自分を超えた方への畏敬の念を持っている。
・感謝の気持ちや他者を思いやる気持ちが育ってきている。
・他者へ思いやりを持てるようになり、また、他者の喜びが自分の喜びへと変えられているように思う。

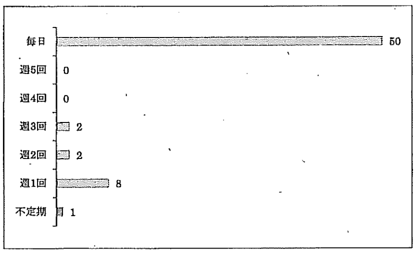
16　今後のキリスト教活動の整備に向けて、その他ご意見がありましたらお書きください。
・クリスチャンを育てる土台作りを各校が取り組んでいけるとよいのではないか。
・日々の祈り、週ごとの礼拝を大切にしていきたい。

中学・高校

・発送数　106　回答数　63　回答率　59.4%

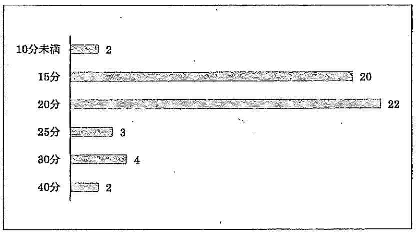
回答者：校長・部長、副校長、教頭、宗教主任、宗教主事、チャプレン、宗教部長、宗教教育部主任、キリスト教活動主任・委員会委員長、聖書科教員・教諭、宗教課長、広報室長

1　礼拝が行われる頻度はどれくらいですか。



（その他）毎日放送礼拝・月1回学校礼拝、毎日HR礼拝・週1回チャペル礼拝、毎日教室で小礼拝、月2回全体礼拝、全員参加礼拝年7回・その他自由参加型礼拝、他

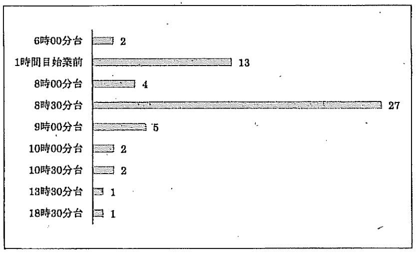
2　礼拝の時間はどのくらいですか。



（その他）10〜15分、15〜30分、45分（特別礼拝）、50分（週1回）、60分（週1回）、中1―50分・他―20分

アメリカのキリスト教学校に短期留学

3　礼拝の時間帯はいつですか。



（その他）朝、朝のHR、1時間目、1時間目終了後、1時間目と2時間目の間、2時間目（ロング礼拝の場合）、授業後（特別礼拝の場合）、終礼（HR）

（5面につづく）

キリスト教教育者物語 ㉓

森田金之助

大阪女学院

森田金之助は、1884年創立以来最初の日本人（しかも男性）校長であった。

1878年東京に生まれ、家族によると「ひ」「し」の区別が付かない生粋の江戸っ子で、宵越しの金を持たないという気質でもあったそうだ。中学部、高等部を経て神学部まで明治学院に学び、1900年神学部卒業後、牧師として伝道活動を経て米国に約4年間留学、帰国後、大阪神学院に教授として迎えられた。

1923年創立者A．D．ヘールの告別式、追悼会の司式を担当したことで、請われて1925年ウヰルミナ女学校校長に就任した。その際には書きためた研究論文をすべて焼き捨て、不退転の決意を示したという。

校長として最初の入学式で、「教育を宗教宣伝に利用するものでなく、宗教は教育に欠くべからざるものである」と語り、1960年召天に至るまで校長、院長として、過酷な時代にキリスト教教育を貫いた。将来を見通して今の決断が出来る人で、1940年にウヰルミナの校名変更の際にも、学院の将来を考慮して命名した。大阪にキリストの光を輝かす中心となる女性を世に送り出すという使命感からであった。戦後も旧に復する必要がなかった所以である。訓令12号により、多くのキリスト教学校が苦悩する中で、最後まで各種学校の地位に踏みとどまり、所謂「指定校」に甘んじた学院の伝統は、森田にもしっかりと受け継がれた。

世の趨勢におもねることなく、しなやかに強（したた）かに学院を導いたが、常に生徒たちを中心に据え、その成長のためには労力を惜しまなかった。敗戦直前の大阪大空襲で校舎が全焼したが、生徒教職員の先頭に立って、学院復興を成し遂げたのである。

好田豊作
〈前大阪女学院副理事長〉

1960年頃

1927年卒業アルバムより

加盟校アンケート集計

キリスト教活動について

先に行われた全国広報委員会にて、教育同盟各校での「キリスト教教育の実践」について情報交換したいとの意見が出され、実務委員会で検討の結果、今回のアンケートを依頼することとなりました。

多くの教会では高齢化が進んでいますが、キリスト教学校は若い方々が在籍しています。キリスト教に基づく価値観をどのように体現させるか、それぞれの学校の取り組みが、参考になればと願っています。

ご協力ありがとうございました。

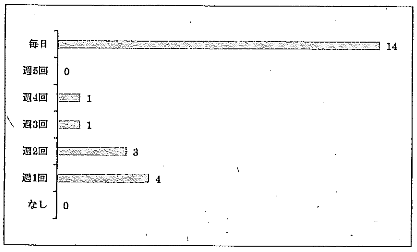
(広報委員会)

小学校

・発送数 33 回答数 23 回答率 69.7%

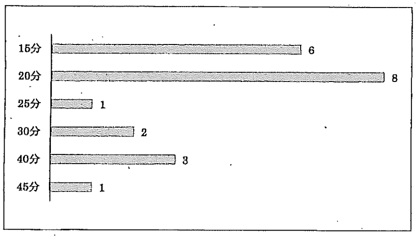
回答者：理事長、学院長、学園長、校長、副校長、教頭、宗教主任、聖書科教諭、キリスト教教育担当教諭、宗教部

1 礼拝が行われる頻度はどれくらいですか。



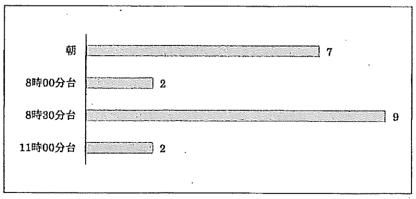
(その他) 全校では2回だが、クラスでは毎日行っている。

2 礼拝の時間はどのくらいですか。

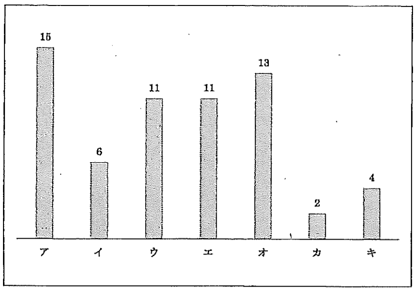


(その他) 10～20分、30～60分

3 礼拝の時間帯はいつですか。

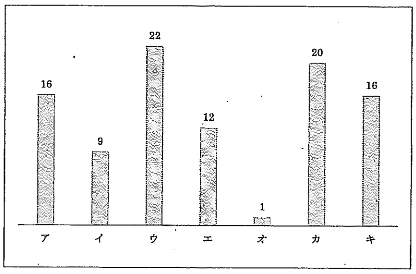


4 礼拝での説教はどのような方がされますか。
(ア)宗教主任・チャプレン (イ)聖書科教員
(ウ)教員(信仰の有無は問わず)
(エ)教員(キリスト者) (オ)近隣・関係教会牧師
(カ)外部講師 (キ)児童



(その他) 学園長、校長、副校長、教会員、系列学校教員・職員、卒業生

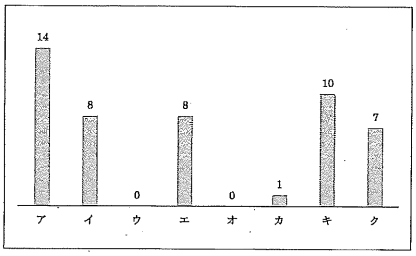
5 どのような特別礼拝を行っていますか。
(ア)イースター礼拝 (イ)ペンテコステ礼拝
(ウ)クリスマス礼拝 (エ)花の日礼拝
(オ)宗教改革礼拝 (カ)入学・卒業礼拝
(キ)創立記念礼拝



(その他) 収穫感謝礼拝(10)、母の日礼拝(3)、キリスト教教育週間礼拝(3)、創立者の記念礼拝、地域教会との児童礼拝、東日本大震災をおぼえる礼拝、宗教委員担当礼拝、受苦日礼拝、元旦礼拝、となりの人を覚える礼拝、学期の始業・終業礼拝、平和を祈る礼拝、感謝の日礼拝、他

6 学校が主導して行っている活動・行事がありますか。
はい 20 いいえ 3

・はい と回答された場合：それはどのような活動ですか。
(ア)聖歌隊 (イ)ハンドベルクワイヤー
(ウ)ゴスペルクワイヤー (エ)聖書研究会
(オ)学生団体(幅広い活動を行っているもの)
(カ)手話サークル (キ)ボランティア活動
(ク)学外行事

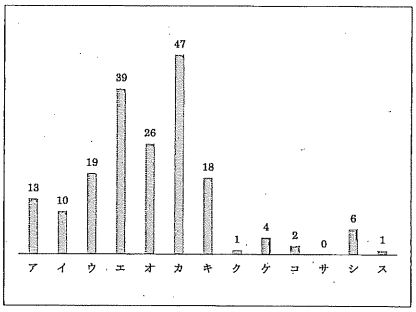


(その他) キリスト教講座、6年生による宗教委員会、トーンチャイムクワイアー、アコライトギルド(礼拝の補助)

7 6(ク)について、具体的にどのような行事か、お答えください。
・各学年自然学校
・タイ訪問団との交流
・特別養護老人ホームや特別支援学校等の施設訪問
・交流・慰問活動
・市主催の見本市でのキャロリング
・保護者向けキリスト教講座

8 (A)キリスト教活動の委員会や宗教センターは設置していますか。
はい 17 いいえ 6

(B)はい と回答された場合：どのようなメンバー構成ですか。
(ア)校長 (イ)教頭 (ウ)チャプレン
(エ)宗教主任 (オ)聖書科教員
(カ)教員(信仰の有無は問わず)
(キ)教員(キリスト者) (ク)外部牧師
(ケ)宣教師 (コ)養護教諭
(サ)カウンセラー (シ)事務職員 (ス)学年主任



・いいえ と回答された場合：今後の設置を予定していますか。
はい 0 いいえ 4

9 (A)キリスト教教育についての教職員対象の研修を行っていますか。または行ったことがありますか。
はい 18 いいえ 5

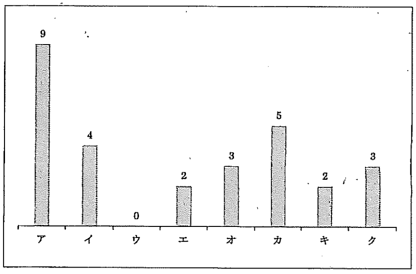
(B)はい と回答された場合：
(ア)どのような研修を行いましたか。
・礼拝奨励指導、賛美歌指導、
・外部講師を招いて聖書研究会を開催
・宿泊を伴うリトリート
・キリスト教教育のあり方について
・東日本大震災の復興支援
・教理研究、教育伝道について
・新任研修会
・修養会
・教員会議での校長の聖書講座

(イ)今後継続の必要性を感じますか。
はい 16 いいえ 0

・いいえ と回答された場合：今後研修をする予定がありますか。
はい 1 いいえ 4

10 学校外の団体と連携して行うキリスト教活動はありますか？
はい 15 いいえ 5

・はい と回答された場合：どのような団体との連携ですか。
(ア)地域教会
(イ)他の学校(キリスト教主義学校)
(ウ)他の学校(国公立学校)
(エ)他の学校(特別支援学校)
(オ)他の教育機関(海外提携校など)
(カ)他のキリスト教団体(KGK、CCC、hi-b.a.、他の教会の伝道活動)
(キ)災害等のボランティア活動
(ク)地域の公共施設



(キ)活動先：三陸の被災地方面
(その他) 系列幼稚園、ワールドビジョンジャパン、子どもの修養会、チャイルド・ファンド・ジャパン、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)、他

11 10の回答について、具体的にどのような活動かお答えください。
・自然学校でのプログラム。宿泊施設で。
・アジア学院、YMCAキープ、タイの教会への訪問
・花の日、こどもの日、収穫感謝での慰問、クリスマスカードの発送
・東日本大震災地の教会、キリスト教団体への継続的支援
・海外の姉妹校との交流
・キリスト教教育週間に積極的参加
・他のキリスト教学校の訪問授業担当や隔年交換短期留学
・近隣教会への訪問
・特別支援学校への訪問
・クリスマス礼拝、イブ礼拝
・ボランティアキャンプ
・系列校とのクリスマス
・合同ジョイントコンサート
・世界の貧しい子どもへ支援、カード・手紙での交流
・キリスト教関係団体や牧師からの活動内容を聞く(子どもの修養会)

12 児童が主体となって行っている特別な活動がありましたら具体的にお書きください。
・奉仕委員会(古切手収集送付、国際飢餓対策機構への献金)
・クリスマスに向けて献金や、文房具・古切手などをユニセフに送付
・礼拝の準備、司会・奏楽
・鉛筆を集めてバングラデシュの子どもたちへ送付
・教会・教会学校との懇談会
・養護学校との交流会
・アコライトによる礼拝奉仕、式典準備、チャペルの清掃活動、道具の手入れ等
・被災地の仮設住宅へ牛乳パックで作った踏み台(いす)を製作して送る
・児童会を中心とした募金活動
・被災地の小中学校にクリスマスカード作成して送付
・クリスマス祝会の企画(ページェント、聖歌隊、

(6面につづく)

戦後70年を迎え 更なる互いの親睦を

韓国基督教学校聯盟第52回総会

1月15日から17日にかけて、韓国基督教学校聯盟第52回定期総会が開かれた。毎年双方の代表者が出かけていって総会冒頭で挨拶をして互いの親睦を深める機会をもっており、今年は磯貝事務局主事と国際交流担当常任理事伊藤が韓国の総会に出席した。

総会は韓国・大田（テジョン）市のユソングホテルを会場に、主題「人間の受くる祝福」のもと行われ、色々に協議をしたり何かを取り決めたりする会議よりも、主題に沿った講演や発題を集まった学校代表者たちが聴いて研鑽を積む学びや修養的要素の強い総会であった。開会礼拝から始まり、主題講演、二つの発題講演、各校報告、毎朝7時からの朝拝のほか特別プログラムとして二日目の午後に大田科学技術大学の訪問見学が行われた。

主題講演はキム・ヒュンテ博士（韓南大学総長）により「21世紀のためのキリスト教教育」と題して行われ、現代の社会状況の分析、青少年文化の特徴を様々な数値データや実例などを紹介した上で、その中でのキリスト教信仰のあり方、生活実践、キリスト教学校の教育指針などについて力強く語られた。また二つの発題演題はそれぞれ「私の人生マラソン40年の道程」（パク・レウィンドウ所長、キリスト教経営研究所）、「解放後の韓国の政治の変化と他宗教の中のキリスト教」（パク・ミョンス教授、ソウル神学大学）であった。礼拝では、創世記12章やヨハネによる福音書4章から、学校の受ける祝福、イエスの教育的姿勢について語られ、参加者らはそれぞれのメッセージに熱心に耳を傾けていた。開会礼拝での高校生聖歌隊による奉唱は大変美しく、また30年の永年勤続教員25名の表彰式が行われたことは特徴的であった。

通訳は金文吉氏

日本からは伊藤が総会開催の祝辞とともに、キリスト教学校教育同盟の法人組織改編について、道徳教科化の問題について、教職員後継者養成の取り組みについて報告し、戦後70年を迎える年に平和の礎となるキリスト教学校を目指すために日本のキリスト教学校の働きのためにぜひ祈っていただきたいとの挨拶とお願いをした。韓国の初等・中等教育は学区制であるため、日本の私学の状況とは幾分異なるが、政府の教育政策と建学の理念との間での相克が常にあることについて、挨拶後、幾人かの先生方からコメントを頂いた。

空港の送迎を含めて三日間のプログラムのすべてに通訳と案内役として同行してくださった金文吉名誉教授（釜山外国語大学、日韓キリスト教史）には大変お世話になり、心からの謝意を表したい。金教授なくしては、会場に行くこともプログラムを理解することも不可能であった。

伊藤 悟

〈青山学院大学宗教部長、教育同盟国際交流担当常任理事〉

キリスト教学校教育懇談会 第13回講演会

日時＝11月23日（月・祝） 13～17時

場所＝大阪

テーマ＝「キリスト教学校がめざすもの—道徳の教科化に対してキリスト教学校はどのように対応していくのか—」（仮題）

主催 キリスト教学校教育懇談会
日本カトリック学校連合会
キリスト教学校教育同盟

キリスト教学校教職員就職支援登録について

教育同盟では、キリスト教学校で働くことに使命を感じて就職を希望する方のために「2015年度キリスト教学校教職員支援の登録」の受付を始めます。この登録は、「加盟校出身者」あるいは「キリスト者・求道者（教会に行っている方）」に限ります。

詳しくは教育同盟のホームページ「教職員をめざす方へ」→「教職員就職支援登録について」をご覧ください。申込書がダウンロードできます（PDFファイル）。郵送希望の場合は、宛名記入の返信用封筒（82円切手貼付）を同封し、同盟事務局まで申し込んでください。

公 募

▽東北学院大学
▼文学部総合人文学科
職種＝美術関連領域、キリスト教教育、文化関連領域 教授、准教授、講師又は助教各1名
採用予定日＝16年4月1日
応募締切＝4月30日
問合せ＝学科長・出村 mdemura@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

▽広島女学院大学
▼国際教養学部国際教養学科
職種＝地理学他准教授、専任講師又は助教1名
採用予定日＝9月20日
応募締切＝4月20日
問合せ＝学部長・波多野 ☎082-228-0386

▽明治学院高等学校
職種＝理科・家庭科助手 臨時職員1名
採用予定日＝4月1日
応募締切＝3月17日
問合せ＝人事委員 ☎03-5421-5011

事務局だより

弥生、そして雨水、冬の陽がロウバイの花びらを透かして輝いた日々が過ぎ去り、やがて梅の香りがどこからともなく漂う日と代わって来た。

しばらくすると桜花の時を迎える。

自然が季節の移り変わりを映し出す。

一つの終焉となる卒業式、そして一つの始まりとなる入学式。

同様に、一つの学年が終わり、新たな学年が始まる。

時間は限りなく続いていくが、その連続の流れを区切ることによって、生活も人も変わっていく。

3月と4月とは人の移り変わりを映していく。皆さまも一年の長き日々を過ごされてお疲れのことと思い、特別にリセットの機会をセット。

任意団体のキリスト教学校教育同盟は、一般社団法人キリスト教学校教育同盟と変わり、さらに、その表裏一体の組織である財団法人を統合する時を迎えている。

組織は単純に、事業は複合と特化、目標は具体的に、一校として為しえないことは連携を通して各加盟校に還元されるべきと事務局では考えている。

現在、98学校法人が加盟する教育同盟も、加盟校の教職員の個々の研修と交誼の出会いから使命の具体化へと一歩進み出しつつある。

その道筋の明示・答申を求めて数多の諮問が準備されつつある。

２０１５年度には、新たな学校法人の教育同盟への加盟申請が続く。（主事）

<行事予定>

5／28 東北・北海道地区第２回中高新任教師研修会（北星学園）
6／12、13 第103回総会（聖隷学園）
　20 第60回東日本小学校教職員協議会（関東学院小学校）
7／25～27 第59回事務職員夏期学校（東山荘）
8／11～13 第２回中堅教員リトリート（同志社びわこリトリートセンター）
　27、28 第５回中堅事務職員研修会（立教学院）
　28、29 第２回大学新任教員研修会（桜美林大学多摩アカデミーヒルズ）
10／１、２ 第７回キリスト教活動担当事務職員研修会（西南学院）
　９～11 第10回全国聖書科研究集会（沖縄）
11／23 キリスト教学校教育懇談会第13回講演会（大阪）

今さら聞けない…

キリスト教Q＆A

受難を憶える時

後藤田 典子
（金城学院中学校宗教主事）

Q 「レント」とはどういう意味ですか？

A 日本語に訳すと「受難節」になります。一言で言うと「イエス・キリストが十字架の死に向かわれる苦難を偲ぶ期間」となるでしょう。イースター（復活日・今年は４月５日）までの46日間を言います。

Q なぜ「レントに入る」と言うのですか？

A 受難節は期間を指すので、学校の行事予定表などには、「レントに入る」と書かれているでしょう。レントが始まる、という意味ですね。今年は２月18日（水）から始まります。この日を見ると「灰の水曜日」「四旬節」とも書いてあるでしょう。

Q 「灰の水曜日」とは、毎年水曜日から始まるのですか？

A レントはイースター前の46日前から始まりますので、必ず水曜日にあたります。かつて、キリスト教が拡がり始めた初代教会の時代では、主の御受難を憶えて額に灰で十字架の印をつけたそうですよ。

Q 「アドベント」もアドベントに入ると言い、クリスマスの準備期間でした。「レント」もイースターの準備期間なのですか？

A クリスマス（降誕日）前には、イエス様がお生まれになることを待ち望み、この世にお迎えするための備えをしますね。アドベント・クランツのロウソクが一本ずつ灯されクリスマスに向けて明るくなっていきました。

けれども、レントは、イースターをお祝いする準備期間ではありません。私たち人間の罪を負って死なれた主イエスを思い、一人一人自分の罪を悔い改める期間なのです。そのため、祝い事などを自粛して静かに過ごす方々も多いのです。中には、毎週の礼拝の度に灯したロウソクを一本ずつ消して、死の暗闇を表す教会もあります。

Q 「受難週」という言葉もありますね？

A レントの最後が受難週です。主イエスが十字架の死を迎えた金曜日（この日を「受難日」と言います）がある一週間です。

キリスト教は愛の宗教とも言われ、明るく暖かく優しいイメージを持っていますが、全ての人間の罪を贖われた主イエス・キリストの十字架の死と復活に支えられていることを忘れてはなりません。学校では学年が変わる慌ただしい年度末・年度始めの時期ですが、主のご受難を憶えて過ごしたいものです。